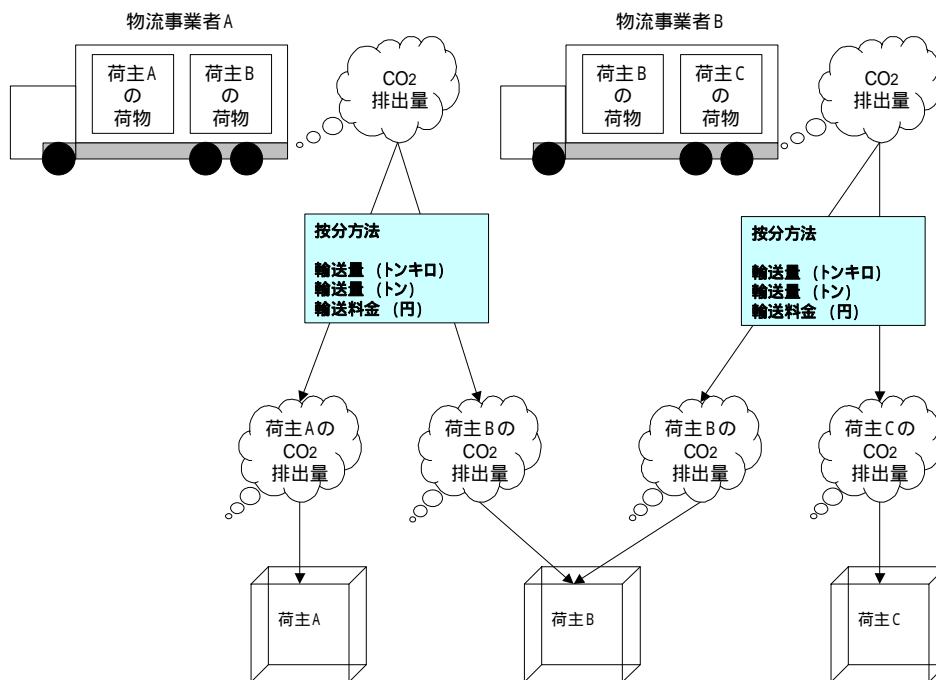


## 4 . 按分の方法

### 4.1 按分とは

- ・ 1台のトラックで同時に複数の荷主の荷物が輸送される場合(共同便)、二酸化炭素排出量を各荷主ごとに按分する必要があります。
- ・ 按分のための指標としては、**輸送トンキロ(トンキロメートル)**や**輸送重量(トン)**、また、簡便的なものとして**輸配送料金が考えられます(図表4 - 1)**。

図表4 - 1 輸配送における二酸化炭素排出量按分の考え方



#### 【物流事業者Aの按分例(トンキロで按分)】

200X年度の物流事業者Aの輸送実績

荷主A 20,000トンキロ

荷主B 30,000トンキロ

計 50,000トンキロ

200X年度の物流事業者Aの二酸化炭素排出量(回送を除く輸配送分)

9,000kg

200X年度の荷主Aの二酸化炭素排出量

$9,000(\text{kg}) \times \{20,000(\text{トンキロ}) / 50,000(\text{トンキロ})\} = 3,600(\text{kg})$

200X年度の荷主Bの二酸化炭素排出量

$9,000(\text{kg}) \times \{30,000(\text{トンキロ}) / 50,000(\text{トンキロ})\} = 5,400(\text{kg})$

## 4.2 按分方法の標準化案

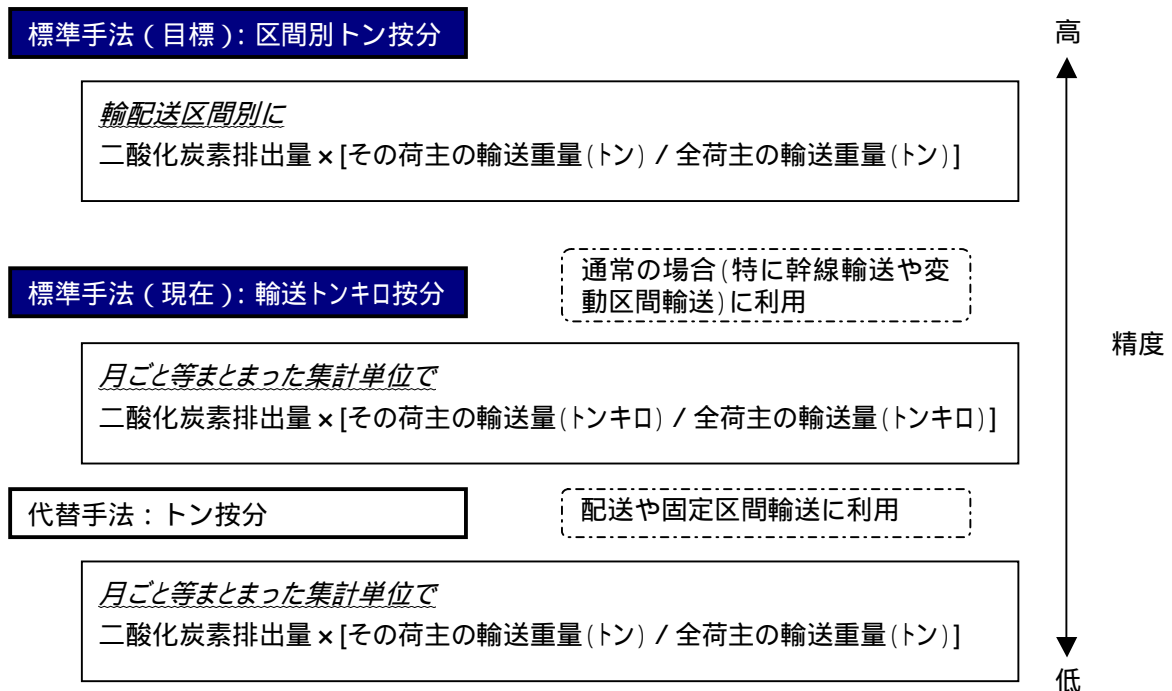
- ・ 按分結果(値)の精度の高さを想定すると、次のようになると考えられます。  
 区間別トン按分 > 輸送トンキロ按分 > トン按分 > … > 料金按分
- ・ **区間別トン按分**は算定精度の上からは好ましいものの、現在の環境のもとでの実行は相当の困難が予想されます。
- ・ このため、**区間別トン按分**は目標とする標準とし、現時点における標準的な按分方法を**輸送トンキロ按分**とします。また、輸送トンキロ按分が用えない場合の代替手法を**トン按分**とします。
- ・ 輸送トンキロ按分の一例を挙げると、ある月の二酸化炭素排出量に、当該月のある特定の荷主の輸送トンキロを全荷主の輸送トンキロで割った値を掛けた結果が、この特定の荷主の二酸化炭素排出量になります(図表4-2)。
- ・ 輸送トンキロ按分もしくはトン按分を実行するためには、荷主と物流事業者の協調(データのやり取り)が必要です。

燃料使用量は回送分を除きます。ただし、回送分の燃料使用量を除外することが出来ない場合は、その旨を明記してください。【ルール1】

按分する際には、複数の荷主に対し一貫した方法で按分を行い、データと按分方法を報告してください。【ルール2】

なお、荷主は、複数の物流事業者から異なる方法で按分されたデータを提供される可能性も考えられます。荷主側から見た場合にも一貫した方法を採用することが理想ですが、これが難しい場合には、複数の按分方法を採用していることを明記してください。【ルール3】

図表4-2 按分方法の標準化案



注1: 区間別に按分する場合、トン按分とトンキロ按分は等しい。

注2: 積載量が容積で決まる場合には、輸送重量の代わりに輸送容積を用いることが考えられる。